

団塊の世代が今、小・中学校へ。育てます、子供らの学ぶ意欲を！

大阪府島本町

活動名

島本町学校支援「ゆめ本部」による活動

関係する学校

第一小学校・第二小学校・第三小学校・第四小学校・第一中学校・第二中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の実績）

活動区分	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
土曜日の 教育活動							
学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア 登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	12人	96人	23年度	無	有	有	無
放課後 子供教室	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティー スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- ・島本町学校支援「ゆめ本部」は、平成20年度よりスタートした国の学校支援地域本部事業を3年間活用した後、平成23年度に町ぐるみの学校支援「ゆめ本部」事業に発展させ、設置当初から町内の小・中学校6校全てで実施している。当初50名ほどの学習支援ボランティアでスタートしたが、現在約100名となり、ローテーションを組んで、小学校4校、中学校2校の放課後学習会などで学習支援を行っている。…放課後学習会（全小学校・中学校）、テスト前自主学習会（全中学校）・土曜スクール（中学校）、木工の実習授業サポート（中学校）、ミシンの実習授業サポート（小中学校）、サマースペシャル学習会（中学校）等実施。
- ・学習支援活動のほかにも学校長の要請に応じて、「緑のカーテンづくり」「図書室整備や絵本の読み聞かせ」「地域の歴史」等の学校支援の活動を進めてきた。さらに、登下校時における子供の安全見守り活動等のボランティアと連携し、多くの地域人材が学校に通うことで、子供たちの安心・安全につながっている。
- ・ボランティアは教員免許がなくても良いとしたところ、多種多様な職業、豊かな社会的経験を持つ人材が集まり、子供たちの学びを支援している。年間延べ344日にわたり、延べ1896名もの地域ボランティアが参加している。
- ・こうした学校支援活動を担うボランティアを対象とした「ボランティア研修会」を年1回実施し、指導主事や現場の教諭からアドバイスを受けてスキルアップを図り、日頃の学習支援活動を振り返っている。また、先の全体レベルの研修会に加え、学校単位でも「子供たちの学びの充実」に向け、学期ごとに現場の教員を交えて学習会の改善策を考え合っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・【町ぐるみの取組】…平成23年度に町ぐるみの学校支援「ゆめ本部」事業に発展させ、町内の小・中学校6校全てで実施している。ボランティアの延べ人数は1896人にのぼる。
- ・【多種多様な職業から参加】…学習支援サポーターには、元教員は少数で、各種産業のエンジニアであった方が多いのが特徴。加えて、元看護師、裁判官、音楽家などの様々な分野から参加いただいている。
- ・【様々な学習支援活動】…放課後学習以外にも、学校の要請に応じて、「木工」「ミシン・調理実習」「図書館整備・読み聞かせ」「昔の島本地域学習」等で、多くの地域人材が学校と「協働」して活動している。
- ・【意欲的な人材育成】…コーディネーターは、会議、学習アドバイザー研修・交流会及びフォーラムを開催するとともに、毎年度末アンケート活動を実施することによって、活動を振り返り、活動の活性化とボランティアの意欲向上を図っている。
- ・【コーディネーターのチーム力】…小・中学校の10数名のコーディネーターが、日常的に連絡を取り合い、情報の交換を行い、よりよい学校支援ができるよう連携している。中でも、中学校のコーディネーターは、コーディネーターのまとめ役を務めるとともに、地域の諸団体とつなぐ要の役割をも果たしている。

【実施に当たっての工夫】

- ・年度末には、児童生徒・保護者・アドバイザーにアンケートを配り、事業の評価を行っている。毎年保護者からの評価は高く、PDCAサイクルをきちんと実践することで課題に向き合い、マンネリを排し、学校と連携したより意義ある活動を目指している。
- ・活動推進のため、中学校内に事務局を置いている。約10人のコーディネーターが月1回夜7時からの事務局会議を行っている。
- ・インターネットを有効に活用したり、年度末には活動報告とアドバイザー募集の広報チラシを全戸配布したりなど、きめ細やかな情報発信に努めている。
- ・京都産業大学の西川信廣教授のコーディネートで「『地域とともにある学校づくり』フォーラム」を実施したり、著名人を講師とした講演会を開催したりと、地域の教育力向上を図っている。講演会はPTA連絡協議会等と共催し、教育コミュニティの充実を図っている。

事業を実施して

- ・親が共働きの家庭では、家でゆっくり勉強を見てあげられないことが多い。「学習会のある日は、宿題を終わらせているので、『宿題をしたのか』と言う必要もなく、親子でストレスが減少した。」という声は多い。放課後学習への保護者の評価や支持は高い。また、父子家庭で「土曜スクール、サマースクール、テスト前学習会へ参加することで学力も上がり、進学も果たした。」と感謝の声を届けてこられた方もいる。いろいろな意味で困難な毎日を送っている家庭の支援になるよう、取組の充実を図っている。
- ・学習アドバイザーへのアンケートでは、具体的な子供の成長の姿がアドバイザーのやりがいにつながっている。「町で子供らに声をかけられうれしかった。」「定年後の人生、生きがいにつながっている。」と答える人もいる。当初50名であった学習アドバイザーは年々増えており、現在は約100名が登録、支援活動を行っている。



小学校放課後学習会の光景

その他

【ICT環境の活用】

- ・ホームページ上に会員専用サイトを設け、事務局会議の関係資料や会議録を閲覧できることから、特にコーディネーター間での情報共有ツールとして活用している。
- ・ボランティアの募集に当たっては、ホームページ上に、ボランティア希望者が仮登録できるシステムを構築し、その増員・拡充に努めている。

【その他】

- ・事務局会議では、この先のコーディネーターの世代交代も鑑み、その人員の確保のため、PTA役員のOBや、学習アドバイザーの中から運営側となってもらうような人に、積極的に声をかけ、本組織に持続性と更なる広がりを見い出す動きもしている。



学習アドバイザー研修会